

「**鐵甲大無敵**」
第三集 ← 一頭一頭！

識者たちが語る

女系天皇
女陛天皇

女性能家の論点



三月十七日に名誉総裁を務められる「全日本スカッシュ選手権」にお出ましになった承子さま。恋人のA氏は記事からの質問「……

2月1日に18歳の誕生日を迎えられた愛子さま。3日から期末テストが始まるという



婚約直前で
公務の担い手が
また減少?!

18歳のバースデーを迎え、来年には大学に進学される予定の愛子さま。ご両親が中心となって即位関連の儀式が行われる一方で、ついに政府は安定的な皇位継承を行うための議論を始めるのだが一。

て動議先のホームページに社
員紹介として載せたことも。
もちろん、承子さまの母親
・久子さまにも挨拶をすませ
ており、即位関連の重要な儀
式が滞りなく終了したあと、
結婚される予定のようです」
(宮内省関係者)

承子さまといえば、イギリス留学中の'07年に、会員制SNS内で赤裸々なプライベートを公開し、「奔放プリンセス」というイメージがついてしまったことがある。

しかし、帰国後に早稲田大学を卒業して『日本ユニセフ協会』学校事業部の常勤嘱託職員として勤務しながら、『日本スカッシュ協会』の名譽総裁を務められるなど公務もしっかりとこなされている。

すでに、ふたりの妹（千家典子さん、守谷純子さん）は嫁がれており、ついに承子さまも結婚という大きな節目をお迎えになるようだ。

二月下旬、承子さまとの婚約について、外出してタクシムに乗り込むA氏に驚いてみると「すみません、急に決めますので」と具体的な言及は避けたものの、肯定も否定もしなかった。近いうちに幸せなおふたりが見られるかもしれない。

承子さまが結婚されると民間人となられ、公務を担われる皇族が大幅に減少することになる。現行の制度では皇位継

「高田宮家の長女・承子さまが、近いうちに婚約を発表されるそうです。お相手は、大手銀行に勤める承子さまと同年に当たるAさんで、数年前からひそかに交際されていました。仕事ぶりも会社から評価されていて

うに、だんだんと国民から受け入れられる存在になるでしょう。どんな方がわからない。成人の男性が突然、皇室に入るよりも、皇族の血を継ぐ名家である旧宮家を復興させるほうが、国民の理解も得られると思います。

川宮家は、現在の皇室ともかなり近い関係なのだという。「過去には男系男子の伝統を絶やさないため、8親等や10親等も離れた方が皇位を継承した前例があります。

東久邇家の現当主は今上天皇のいとこ、久邇家の現当主は上皇陛下のいとこで、かなり近い関係なのです。復讐していただくとご満足していただけるのは、そのお孫さんたちです。さらに、今回、御即位礼や皇族の結髪式、葬儀などでも旧宮家のための席が設けられていきます。現皇室の方々と歴代な交流のある方々なのです」

高いハードル!

河内清経氏は、現在、豪族大屋のあり方から旧藩政に對して徹底的に「側人」たる旧官家を批判させる案には賛成しかねます。現在の藩政は皇ごころは血筋の藩政と例えてもよいでしょう。側人は被支配階級を築き

返されるなどの、振る舞いや人格、道徳性などがあるからこそ国民から尊敬の念を集めていらつしやいます。そういつた點は民間から皇室に入つて、すぐに身に付けられるものではないと思つたからです。

た旧宮家の方々には、次のよ
うな危険性が伴うという。

皇族の方が皇族になつた場合、その方のあらゆる過去が知人などから漏れる危険性があります。例えば、眞子さまは結婚されることと皇室から離れるお立場であるにもかかわらず、嫁ぎ先である小室家が問題視されてしまいました。

天皇になる可能性がある川宮家の方々がトラブルを抱えていたり、過去の好ましくない行いなどが発覚すると、国民から尊敬の念が得られなくなることもありえます」(河

西准教授)

いろいろな意見が飛び交う皇位継承問題。前出の山下さんは、政府の考える「落としどころ」をどう推測する。

「**皇位継承**は現在の皇位継承順位を変えずに、女性も女系も承認するという法改正を落としてごころにしようとしているように思えます。そのとおりになると、皇位継承は秋篠宮殿下、悠仁親王殿下、常陸宮殿下という順位は変わらずその次に愛子内親王殿下や貴子内親王殿下などの女性皇族が加わることになります。

この考え方であれば、悠仁親王陛下の御代では男系男系が維持され、皇室の公務を担う皇族の人数も増えます。悠仁親王陛下が結婚され、連よく男のお子さまに生まれれば、男系男系はさらに続きます。もし、男のお子さまが生まれなかつた場合には、女性天皇、もしくは女系天皇の誕生となります。

**愛子さまの即位は
現実的に厳しい**

さらに山下さんは「女性・女系天皇が容認されても『愛子天皇誕生』というわけではない」と続ける。

「女生・女系天皇が容認され

女子(男系女子)
 男子(男系男子)
 男子(女系男子)
 女子(女系女子)

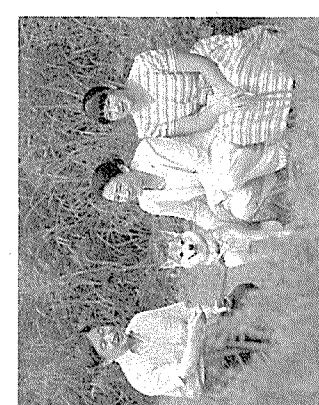
れば、愛子内親王殿下が次の天皇になるという報道も見受けられますが、**「長子優先」の規定がなければ愛子内親王殿下は皇位継承順位第一位にはなりません**――

つまり、皇位継承順位を男系男子や年齢順、長子など、どの項目を優先するかによって、愛子さまの順位が変わるということだ。百地教授が、愛子さまが即位される実現性の低さを指摘する。

「過去には女性天皇が存在しているの、理論的には愛子さまが即位されるのは可能だと思います。しかし、現実的には厳しいでしょう。」

ひとつには、女性天皇は、代限りであり在位中の結婚はできず、子どもを産むこともできませんでした。そんな残酷なルールを、愛子さまに強

また、女性天皇の議論は、男性皇族が一人もいらずやらない状況でなければ、すべてではないことが前提だと、思ひからす。皇位は、現位特例法を制定した際、政府は皇位継承順位を継体宮さま、懿仁さまの順で決定しており、それを簡単に覆すというのはありえないと考えます。ところがこの意見は聞きません。今後、仮に女性・女系天皇が承認されたとしても「愛子天皇」の元兇には違いないと、私は思います。



前出の山下さんは、これらの問題について、最終的には天皇陛下のお考えを知ることが重要だと話す。

系する皇位継承
て陛下下のお考
8月19日)

「皇位継承に關して、さまざま意見があります。この問題は國家として重要であるとともに、王儲候補として重要な事です。この問題を國民が判断するために重要である天皇陛下のお考えを伺いたいと思つては當然だと思ひます。」

今年5月のお代替わりの國民の候補の中、行かれたのは上皇陛下のお氣持を國民が理解していただく事です。皇位継承に關しても多くの國民が納得するために王儲陛下のお考えを知ることが重要だと思ひます。

皇室の将来に重大な意味を持つ皇位継承議論は、どんな議論にすべきだろうか。